

令和7（2025）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

北千住どろんこ保育園

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)“感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔心を心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中的言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世68(在籍児童数88)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	88
利用者家族総数(世帯)	68
共通評価項目による調査対象者数	68
共通評価項目による調査の有効回答者数	58
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	85.3

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」62.1%・「満足」32.8%の計94.8%と高い値を得ており、設問別でも「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「戸外活動」など、全17問中13問で80~90%台の高い支持を得ている。自由意見では「動物のお世話(ヤギとニワトリ)や畑仕事など、都会では経験しづらいことを日常的に経験させてくれ、ありがたい」「足腰が強くなり体力がつくよう導いてくれるところ、活動時の急な発熱や延長に対して寛大なところがよい」「発達支援事業所が併設され、利用者は事業所・保育園間の送迎が不要である点、預け時間への柔軟な対応、五感を使う体験をさまざまなバリエーションで導入している点、職員方の積極性・意欲・態度など、あらゆる点で素晴らしいと感じる」「子どもの主体性が大事にされ、職員の皆さんも真面目で明るく、いつも真摯に対応してくれる」「異年齢保育で先輩の姿から成長したり後輩の面倒を見て社会性を身につけることが自然とでき、食育も素晴らしい」などをはじめ、さまざまな称賛・感謝の声が寄せられている。要望などとして複数見られたのは、安全管理や、日常のコミュニケーション、職員の体制や保育・行事に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	56	1	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。自由意見は「園内菜園や動物や昆虫の飼育、マグロや鶏の解体など、家庭では体験できないことを積極的に展開され、子どもたちも楽しそうに参加している」「外遊びを重視している点と、子ども一人ひとりの主体性を大事にしてくれる点が、心身の発達に役立っていると思う」「異年齢保育で発達の遅れがあっても、フォローし合って過ごせているように感じる」など、全14件はいずれも称賛・感謝の声である。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	54	2	0	2
「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。自由意見は11件で、「動物のお世話や野菜を育てたり、築山に登り泥んこになりながら、自然いっぱいの貴重な体験ができていく」「さまざまなバリエーションをもって活動を行ってくれ、その中で興味のあるものに参加できる体制になっている」「マグロの解体や鶏の屠殺など、普段体験できないことを体験させてくれ、食への関心が非常に高まっており、アート作品も多く、家に持って帰って喜んで活動している」などのほか、活動内容について、気になる点や要望が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	1	0	1
「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。自由意見は「野菜が苦手な家でまったく口にしない子どもが、園の食事・おやつではよく食べているようだ」「園で食べた野菜などをうちでも食べられるようになり、ありがたい」「苦手なものも園では食べていると聞き、栄養も考えて食べさせてくれて助かっている」「年齢に合わせた食事を提供してもらっている」「自分たちで育てたものを、自分たちで調理して食べる機会が多く、とても食育によいと思う」など、全16件はおおむね肯定的な内容となっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	55	1	0	2
<p>「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。 自由意見は12件で、「畑仕事や商店街の人たちとの交流など、普段はできない経験がありがたい」「園庭だけでなく、外に出ているいろいろな公園、河原などで自然とふれ合っているようで、商店街のお店や銭湯、老人福祉施設への訪問もあり、さまざまな人と関わることができている」「地域柄自然とふれ合える機会が少ないが、土手を利用したり遠くの公園まで出向いたり工夫してくれている」などのほか、安全面や夏の水遊びについて、要望が寄せられている。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	4	0	11
<p>「はい」が91.5%、「どちらともいえない」が8.5%となっている。 自由意見は10件で、「お迎えの人の変更や時間も快く応じてくれる」「お迎えに遅れそうな時に電話で伝えたら、快く承諾してくれた」「仕事で迎えが遅れてしまっても、誰一人嫌な顔せず接してくれ、大変助かる」「延長時の親切丁寧な対応に、非常に感謝している」「こちらが恐縮するぐらい柔軟に対応してくれる」などのほか、延長保育利用等の融通性に関する内容が寄せられている。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	36	13	4	5
<p>「はい」が67.9%、「どちらともいえない」が24.5%、「いいえ」が7.5%となっている。 自由意見は12件で、「老朽化した設備は撤去するなど、安全対策は十分にされていると思う」「事故やケガの対策はしっかりしてくれているが、失敗するのも子どもの権利だと考えているので、命に関わらなければケガは大歓迎である」「避難訓練など定期的実施され、災害時の避難場所も周知徹底してくれている」などのほか、保育中の安全管理や外部侵入対策、衛生管理や感染症対策について、気になる点や要望が挙げられている</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	50	6	1	1
<p>「はい」が87.7%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は13件で、「保護者の都合も考えて、夕方や土日に開催するなど配慮されている」「事前に年間計画もあるため、予定を調整しやすい」「チラシやアプリでの周知やお迎え時での声かけがあるので参加しやすい」「基本的に土曜日なので参加しやすい」などのほか、要望などとしては、行事の日程・連絡などにおける配慮に関する声が見られた。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	12	2	3
<p>「はい」が74.5%、「どちらともいえない」が21.8%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見は20件で、「保育参加もできるので、積極的に相談できる環境になっていると思う」「その日にあった出来事などを、連絡帳や迎えに行った時に丁寧に教えてくれる」「お迎えの申し送りを聞くと、子どものことをよく見てくれていると感じる」「連絡帳に書いた時や、送迎時に軽く話す中でも話を聞いてもらっている」などのほか、コミュニケーション機会の確保や職員の体制・対応などについて、気になる点や要望が寄せられている。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	45	9	4	0
<p>「はい」が77.6%、「どちらともいえない」が15.5%、「いいえ」が6.9%となっている。 自由意見は11件で、「掃除も行き届いており、子どもたちの朝の雑巾がけの習慣や遊んだ後のお片づけも徹底されて、自宅でもお片づけしてくれている」「子どもと一緒に掃除することもあり、みんなで気持ちのよい空間にしようとしていると感じる」「園児のみんなが朝の掃除をしているので、非常にきれい」などのほか、園舎内や園庭の衛生管理や清掃の徹底などについて、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	7	0	0
<p>「はい」が87.9%、「どちらともいえない」が12.1%となっている。 自由意見は10件で、「先生全員が気持ちのよい挨拶をしてくれ、園全体が明るく元気な印象である」「愛情深く接してくれるので、非常に信頼感がある」「みな敬語を使って保護者に話している」「問題ないと感じている」などのほか、職員の保護者や子どもへの接遇などについて、気になる点や要望が寄せられている。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	10	1	1
<p>「はい」が80.7%、「どちらともいえない」が17.5%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は10件で、「すぐに連絡をくれ、どう対応してくれたのかも教えてくれる」「子どもの状況、こちらの状況を総合的に判断し、場合によっては病院にも行ってきて、非常に頭が下がる」「発熱しても絶対に急いでお迎えに行かなければいけない、などがなく、大変助かっている」などのほか、要望などとしては、ケガや体調不良等の把握・対応や保護者への連絡などに関する声が見られた。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	7	2	9
<p>「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が4.1%となっている。 自由意見は11件で、「子ども同士のけんかの際は、お互いの子に対して適切に声をかけているように思う」「一方的に決めつけるのではなく、双方の話を聞いてくれ、そのうえで、相手が誰かではなく、今後どう関わっていくかを共有してくれる」「詳細に教えてくれて、子ども同士で解決させようとする姿勢が信頼できる」などのほか、トラブル等の把握・対応や保護者への報告・説明などについて、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	48	5	1	4
<p>「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が9.3%、「いいえ」が1.9%となっている。 自由意見は12件で、「心からそう思う」「子どもの話をよく聞き、たくさん誉めてくれ、大変感謝している」「子どもたちが先生を大好きなことが、いつも誠実に丁寧に向き合ってくれている証拠だと思う」「個々が自立できるよう、本人が何をしたいかを聞き、行動を選択させてくれる」「お散歩でも本人が行きたくないと言えば、園内に残してくれているようだ」などのほか、子どもの心情に寄り添った対応などについて、気になる点や要望が寄せられている。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	41	5	2	10
<p>「はい」が85.4%、「どちらともいえない」が10.4%、「いいえ」が4.2%となっている。 自由意見は8件で、「あらかじめ声をかけてくれて、どこで話すか考えてくれる」「しっかりと離れたところでお話を真摯に聞いてくれるので、守ってくれる信頼感がある」「個人的なことを特定の先生に伝えたが、上手に園内で伝えてくれたようで助かった」などのほか、プライバシー保護等への配慮について、気になる点を挙げる声が見られた。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	45	10	1	2
<p>「はい」が80.4%、「どちらともいえない」が17.9%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は9件で、「事前にしっかり内容説明を受けていたので、入園前のイメージと認識の乖離はあまりない」「帰りの時間に丁寧に話してくれるので、よく理解できている」「毎日、どのように活動していたかの伝達は十分である」などのほか、保育内容や子どもの様子、園のルール等に関する保護者への説明などについて、気になる点を挙げる声が見られた。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	42	9	2	5
<p>「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が17.0%、「いいえ」が3.8%となっている。 自由意見は10件で、「特に不満はないが、要望するとすぐに対応してくれる」「真摯に対応してくれている」「その場で返答できなくても、後日しっかり回答をくれる」などのほか、要望などとしては、不満・要望等への傾聴姿勢や対応、組織内の情報共有について、気になる点を挙げる声が見られた。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	31	4	3	20
<p>「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が7.9%となっている。 自由意見は3件で、「相談できる環境は作ってくれている」「パンフレットに書いてあり、保護者会でつどアナウンスしてくれる」のほか、苦情解決制度等の周知について、さらなる配慮を望む声があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	系列全園で目指す園運営と保育や子どもの育ちのあり方が、保護者に周知されている 法人の理念「にんげん力。育てます。」、子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」、育成の指針とする子どもの心身の「6つの力」を系列全園で掲げ、保育と園運営の指針として、農作・労働と種々の生活体験、地域・社会との関わりを積み重ねる日々の保育提供を通じ、子どもたちに自分で考え行動する力や、そのために人を頼り、尋ねることのできる力を培っている。保護者には見学・入園時にこれらを説明し、種々の発信・掲示物や保護者懇談会等を通じて、これらの体現としての保育や子どもたちの育ちの様子を伝えている。 年度の園運営全般の方向性を、法人の理念や目標・ミッション等を踏まえて定めている 職員には入職時やその後の法人の各種研修などの機会に、上記の法人共通に目指すものについて、理解と実践や再確認が促されている。また法人がこれらを踏まえて「運営本部ミッション」を毎年度定め、年度の園の目標や事業計画に反映させる仕組みとなっている。年度開始前には全職員参画の「策定会議」「キックオフミーティング」を実施し、左記の園の目標や行事その他の年間予定を、話し合いのもとで検討・決定している。園長・主任及び乳幼児各リーダー、併設の発達支援施設の施設長が園運営の統括を担い、園・法人の種々の方針を現場と共有している。 組織内の意思決定と情報共有や、保護者への各種重要事項の発信の仕組みを整えている 園運営における必要な意思決定は、上記の年度開始前の各会議のほか、経営層によるリーダー会議や、原則全職員が集う園会議で主にやっている。毎月の園会議では、保育に関する種々の研鑽や、法人共通の職員の規範「コンピテンシー」に基づく毎月の行動目標の設定・振り返り、併せて行う事故防止委員会での安全面に関する啓発と情報共有など、現場の実務的な学びも持たれている。また朝礼を毎日設け、必要な情報共有を行っている。保護者への各種の重要事項の伝達は、主にアプリでの配信と既読確認によって行う仕組みとなっている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
年度と3か年の園の運営・重点施策や、現場の実務に関する各期間の計画を作成している 年度の事業計画に、運営における年間の基本方針と、保育内容の充実・質の向上、保護者・地域支援、人材育成、環境・食育、発達支援施設との連携による「真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり」の各分野で年度の重点施策を定めるほか、年間の保育・行事その他の実務や会議・研修等の予定を記載している。またこれらに加え、毎年度更新の3か年計画として、当年度から3か年の目指す姿・重点施策と、前年度の振り返りを併載している。計画中の保育をはじめとする各実務については、分野ごとに年間及び各期間の実行計画が別途作成されている。		
保護者や職員の意向の把握と、各計画の実行や経営状況の管理の仕組みが整えられている 上記の各計画の作成にあたっては、多様な視点から情報収集を行い、課題の明確化に活かしている。保護者の意向は日々の会話・アプリ連絡帳や面談、保護者懇談会での傾聴などを通じ、また職員の声は前述の各会議や定例・随時の面談、運営や組織の同僚性・労働環境に関する法人共通の意向調査などから、それぞれ把握している。上記の実務計画では、保育の年間計画の四半期ごとの評価・反省をはじめ、必要な進捗管理や実行後の振り返りがなされており、予算の作成と執行管理など、経営状況の把握と管理は、法人が園と随時連携して行う仕組みとなっている。		
地域の状況や行政の制度・政策等に関する情報を収集し、運営や計画作成に活かしている 地域内の子育てと保育・教育などに関する傾向・ニーズは、入園前見学や後述の地域子育て支援「ちきんえっぐ」で来園する未就園家庭の声、在園世帯との日々の会話や、地域内の保育所・幼稚園・小学校の連携会議などから把握している。また施設経営に関連・影響する各分野の政策や制度の情報、業界内の直近の話題については、関係自治体の各種発信物や法人内の系列園が集う各会議、関連の各種報道などから把握している。これらの各種情報も園運営や計画立案の参考とし、重要なものは園会議などを通じて職員にも周知されている。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>子どもの人権の尊重と虐待防止をはじめ、職員の規範意識の不断の向上が促されている</p> <p>法人共通の「コンピテンシー」に、「プロになる」「保護者の立場に立つ」「ビジネスマナー」など7分野で、職員の判断・行動に関する規範を定め、これに基づく各職員の内省と、組織の行動目標の設定・振り返りを毎月行う仕組みを設けている。また入職時の法人・園での初期教育においても、子どもの人権の尊重や虐待の防止、守秘義務など、保育者に求められる倫理や、社会人・職業人としての各種基本心得に関する啓発がなされている。子どもの人権と虐待防止については、法人共通のチェックリストを用いた年2回の全職員の振り返りもなされている。</p> <p>保育者の子どもへの不適切な言動の排除と、保護者の意向への適切な対応に努めている</p> <p>法人が「保育士による虐待(定義)」として、呼び捨て・暴言、背後から抱き上げる・喫食を強要するなど、してはならない子どもへの言動13項目を定め、園内では更衣室に掲示されている。法人制作のマニュアル・動画の読み合わせ・視聴とその後の話し合い、子どもの権利擁護に関する法令・条約の確認や日頃の子どもの接遇の振り返りなど、いわゆる不適切保育の排除に関する研鑽にも努めている。苦情解決制度や意見申し出用のウェブフォームの開設、日々のコミュニケーション等、保護者の意向の把握にも努め、案件に即した適切な対応を図っている。</p> <p>児童虐待等の早期発見・防止や、地域との積極的な連携・交流にも取り組んでいる</p> <p>児童虐待に関する法人共通のマニュアルを常備し、家庭での虐待等の疑いや事例が察知された際の、法人と連携した対応の仕組みを整えている。また各種ウェブ媒体や足立区を通じて園の情報を発信し、保育・食育や農作の各種体験、近隣の公園での「青空保育」や保健などの各種講座、ベビーマッサージなど、多彩な内容で地域の子育てを支援する「ちきんえっく」を毎月実施し、近隣の都営住宅にはその広報を掲示している。実習生や職場体験生の受け入れも活発に行い、地域の保・幼・小の連携会議を通じ、保育・教育関係者との連携・交流にも関わっている。</p>		

カテゴリー4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>水害を含む各種災害や不審者への備えなど、各種重要リスクへの対策に取り組んでいる</p> <p>荒川土手に近接する園の立地を踏まえ、水害対策訓練を毎年度設けるほか、系列園の事例をもとに誤飲リスク排除の徹底に注力するなど、時季や園内・法人内外の状況を踏まえ、重視すべきリスクへの対策に取り組んでいる。毎月の防災訓練では種々の発災ケース・時間帯を想定して災害時の対応を確認し、災害・感染症発生時の各業務継続計画が、法人の「保育品質マニュアル」に記載されている。侵入を想定した不審者対策訓練も年2回実施しており、活発に行う散歩では人通りの多い駅周辺なども通ることから、戸外での不審者対策の検討にも取り組まれない。</p> <p>各種事故の防止や緊急時の諸対応の確認、周期的な安全点検もなされている</p> <p>保育中の子どものケガ等の事故と、関連の各種ヒヤリハットは、遅滞なく検証と原因・防止対策の検討を行うとともに、毎月の園会議内に設ける事故防止委員会で、各種のケガ、かみつきなどの子ども間のトラブルや散歩時の各種事故など、毎月の事例の共有や必要に応じたケーススタディ、発生の傾向や時季ごとの保育活動を踏まえた注意喚起がなされている。上記の保育品質マニュアルの関連部分の確認、心肺蘇生・救命救急や嘔吐処理手順等に関する研鑽にも取り組むほか、法人共通の各種チェックリストによる周期的な安全点検も行われている。</p> <p>各種情報の適切な管理・利用を徹底すべく、必要な仕組みと環境を整備している</p> <p>保育品質マニュアルに、情報漏洩の防止とプライバシー・肖像権の保護などについて、実務上の遵守・禁止事項が詳細に定められている。職員には入職時の研修・OJTやその後の年2回の「情報セキュリティチェックを通じた関連の啓発が行われ、実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守に関する誓約を確認している。重要書類の施錠管理や端末・ソフトウェア類の各種セキュリティ設定、法人による端末類の使用状況等の管理など、環境面でも情報漏洩の防止に配慮し、保護者には個人情報の利用目的や開示等の請求について、入園時に説明を行っている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>人材の確保と園の状況に応じた適切な配置に努め、労働環境の整備にも取り組んでいる</p> <p>職員の募集・採用は、法人の人事・採用担当部門が、各種養成校や関連媒体・業者での求人、在職者への人材紹介奨励など、多様な方法で実施し、各施設の人材ニーズに応じて配属を決定している。異動や配置などの人事は、法人による毎年の「キャリアデザインアンケート」や園長との面談から各人の意向を把握したうえで、各園の体制の状況に応じて行い、園内では先輩・後輩間の育成や各人の経験・適性、各クラスの状況やチームとしての関係性などを考慮して人員を配置している。各種労務管理やストレスチェックなど、労働環境の諸整備もなされている。</p> <p>職員の研鑽・職責の指標と個別の目標管理制度、新人育成の仕組みが設けられている</p> <p>法人共通の「保育品質マニュアル」中の「人材育成・研修計画」に、法人内の研修等の体系が示されるほか、給与規程上の資格等級表に、経験・職位ごとの職責が一覧化されている。常勤者には左記の等級に応じ、個人及び組織の一員としての成長目標を、年度の事業計画中の重点課題をもとに定め、半期ごとに達成評価を行うMBO(目標管理)を運用し、処遇にも反映させることで、意欲の向上も促す仕組みとしている。また新入職者には、基礎業務全般の習得に関する「OJT研修」が実施され、先輩職員による実務的な指導と助言・相談対応がなされている。</p> <p>法人・園の各単位で、学びの充実・促進や実務的な話し合いと課題解決に取り組んでいる</p> <p>法人内に、新人・リーダー育成や子どもの人権・虐待、業務改善や法人の「保育品質マニュアル」「コンピテンシー」等に関する各種研修と、多種多様な課目のEラーニング教育コンテンツが整備されている。また保育や発達支援・保護者支援などの各種テーマについて、各施設の担当者が学び合う「子育ての質をあげる会議」も設けられ、園内では毎月の園会議で、これらを踏まえた研鑽に取り組んでいる。園会議では安全面や虐待防止をはじめとする規範意識の向上、保育や子どもの状況など、種々の話題での話し合いと課題の検討もなされている。</p>		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度の事業計画では、「保育内容の充実・質の向上」分野の重点課題の一つに、「温かい雰囲気の中で子どもを中心に置いた丁寧な保育を追求する」を挙げた。日々の保育の中で、忙しさなどに起因し、子どもとのやり取りが雑になる場面がしばしば見られたことから、まずは職員同士が互いを認め、尊重し合える関係を築くとともに、子どもに対し、日本語として適切な表現で語りかけ、接することができるよう、知見を高め、かつ心にゆとりを持って保育にあたるようにすることを目指した。主任が法人の内部監査を参考に項目を設定し、毎月模擬監査を実施するとともに、必要な助言・指導を随時行った。また毎月の園会議でも同監査を踏まえた話し合いの場を折々に設けるほか、法人のEラーニング教育コンテンツで提供される動画の視聴を通じ、子どもにやる気を出させる言葉かけや誉め方・叱り方などを学ぶとともに、ロールプレイを通じて実際の接遇について考える取組も行った。法人共通の「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」に基づく全職員の年2回の内省や、全国保育士会作成の子どもの人権擁護に関するセルフチェックリストを活用し、日々の保育に関する話し合いも実施している。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>年間を通じた研鑽の積み重ねにより、徐々に各職員の子どもへの関わりも、本来あるべき姿に近づくようになり、年度末に園長が作成した事業報告書には、「子どもを中心に置いた保育について考え、職員がみな穏やかで丁寧な保育ができるようになった」「保育の中での気づきを職員間で活発に振り返る姿があり、そこも丁寧な保育につながっていると感じる」との記述がある。経営層は取組の成果として、各人が子どもに应答的に関わろうと意識する様子が見られ、さまざまな行動に対するアプローチの幅も広がったと考えている。運動会や生活発表会でも子どもの声を内容に活かし、取り組み方や発表方法を工夫することで、それぞれの子どもが意欲的に取り組み、表現したり発表したりできるよう促すことに努めた。</p> <p>今年度も同様の重点課題を事業計画に定め、模擬監査についても実施方法を変えて継続している。また昨年度から引き続いて、法人の「子育ての質をあげる会議」の年度テーマを踏まえ、保育所保育指針における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」やいわゆる教育の5領域について、園・法人における保育実践との結びつきを踏まえながら学びを深める取組もしている。</p>	

評価項目2
 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)
 昨年度の事業計画では、「次世代を担うスタッフ育成」の分野で、「チーム保育の向上を図る」を重点課題の一つとした。乳児・幼児ともにリーダーを中心としたチームの構築を図るとともに、誰もが子ども中心の丁寧な保育ができるよう、意見交換をしながら園全体のモチベーションを上げ、チーム力を高めることを目指すこととした。
 乳児・幼児会議を月に1～3回設け、直近の保育や子どもなどに関する話題について、活発な意見交換を促すとともに、それらをリーダー会議で随時共有し、園長・主任が適宜助言や指導を行った。それらをもとに、各リーダーが中心となり、乳児・幼児の各クラスで実践や環境構成に反映させることで、上述の目指す保育のあり方を体現してゆく仕組みとして、年間を通じて取組を行った。
 また上記「評価項目1」に既述の、法人の「子育ての質をあげる会議」を踏まえた取組として、保育所保育指針における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」やいわゆる保育・教育の5領域について、「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」などの各テーマについて、自園や系列他園の保育活動に照らし合わせながら、実践の視点で継続的な研鑽に取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評
 取組は一定の成果に結びついており、経営層は各クラス及び乳児・幼児間で、職員の連携が深まったり、保育実践がより豊かになるなどの好影響が得られたと考えている。事業報告書上の園長の振り返りには、「乳児・幼児それぞれのチーム力の向上が見られたが、さらに園全体のチーム力を上げるべく、意見交換を活発に行っていく」と記述されている。
 今年度の事業計画にも同様の重点課題を継続して定め、昨年度の成果を基盤として、さらにチームとしての総合力を高めるべく、会議等での情報共有や直近の保育の諸課題に関する話し合いを随時行っている。また10の姿・5領域に照らした園・法人の保育の再理解も継続し、なぜ泥遊びに力を入れるか、散歩に行く目的は何か、畑仕事をする意味など、園・法人が保育の基調とするさまざまな活動について、本質的な理解を深めるとともに、アタッチメントなど、保育と子どもの発達に関する基礎的な知見の獲得にも取り組んでいる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評			
<p>園・法人、行政のホームページに、保育の方針や基本情報が掲載されている</p> <p>園のホームページには、所在地、連絡先、定員、運営時間といった基本情報に加え、園便り、食育・保健便り、日々の生活や遊びの様子を紹介するブログを掲載し、併設する児童発達支援施設や地域子育て支援センターの情報も提供している。また法人のホームページには、系列園共通で大切にしている考え方や実践を、「どろんこの子育て4つの軸」や「どろんこの子育てで身につく6つの力」として紹介している。区のホームページでは施設紹介が公開され、園の基本情報とともに、年間の行事予定、保育・施設の特徴と園からのメッセージが発信されている。</p> <p>パンフレットに、保育の目標や活動内容、園利用に関する留意点などを掲載している</p> <p>見学者に手渡すパンフレットでは、園が目標とする子どもの育ちを、「ケガをしない強い身体を育てる」「自分でできることを自分でする」「全体的な人との関わりから判断や行動を身につける」「活動を選択し、自分で考えて行動する」「生死を知る／食の循環を知る」「感じたこと／考えたことを表現する」の「6つの力」に分類して紹介している。またそれらを育むための、具体的な活動の内容や援助の考え方・方針についても詳述されるほか、災害時や子どもの体調不良時の対応、苦情解決制度・荷物など、園生活に必要な情報も掲載されている。</p> <p>入園希望者の見学を受け入れ、園の保育の特徴を伝えている</p> <p>見学希望者を受け入れており、上記のパンフレットを手渡し、特に重要となる保育の目標に関する説明を行った後、保育室を回りながら、実際の子どもたちの遊びや食事の様子、保育者の関わり方などを見てもらっている。質問事項には丁寧に応答することを心がけ、保育体験や育児相談もできることも伝えるようにしている。また地域子育て支援事業として、地域の公園で園児たちと一緒に遊ぶ「青空保育」や親子で調理を楽しむ「自然食堂」、子育てに役立つ講習会「寺親屋」などを実施しており、地域の家庭に園の考え方や特徴を伝える機会もなっている。</p>			

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園の際には、園の利用に関する各種重要事項を説明し、同意を確認している</p> <p>入園が決定した保護者を対象に、重要事項を説明する機会を設けており、園長が項目を一つずつ説明している。パンフレットや重要事項説明書をもとに説明し、保護者に用意してもらうものや延長保育等の利用料金に関わること、保護者に協力を依頼する事柄等については、誤解のないよう丁寧な説明を心がけ、保護者に用意してもらうものについては実物を見てもらい、理解を助けている。説明終了後、内容に漏れがないかを確認したうえで、署名にて保育開始の同意とし、個人情報の利用に関する同意、肖像の利用に関する可否も確認している。</p> <p>入園が決定した保護者を対象に面談を実施し、情報を職員間で共有している</p> <p>入園が決定した保護者には、事前にアプリケーションに関する資料を配付し、住所、勤務先、送迎者登録のほか、発達や保健面の情報を入力してもらうことになっている。また個別の面談を実施しており、面談時には、「入所前児童面談票」を用いて、保育園経験、既往歴、発達、食事・栄養、身体状況、生活リズム、認知の状態などについて詳細に聴き取りを行い、職員間で情報を共有している。食事や健康に関して特段の配慮が必要な場合には、看護師や栄養士からの聴き取りも実施しており、その後の保育における適切な援助につなげている。</p> <p>利用の開始・終了時における不安の軽減に向けた援助・配慮に取り組んでいる</p> <p>入園直後の「慣れ保育」では、可能な限り保育者が1対1でスキンシップを図り、子どもが好きな遊びや場所の把握に努め、保護者にミルクの与え方を見せてもらっている。登園開始後の保護者の不安を和らげられるよう、登降園時の丁寧な対話に努めている。転園の場合には手作りのプレゼントを渡すほか、再訪の誘いも行い、就学への面談や就学支援シートの作成に応じ、関係機関との情報共有にも努めている。卒園児に対しても継続的な関わりを大切にしており、「どろんこ祭り」への案内を行うほか、小学1年生を対象とした企画を年に2回設けている。</p>			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	13/13
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当	

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>保護者との連携を基盤とした情報共有に取り組んでいる</p> <p>保護者や子どもに関する情報をアプリに登録し、入園時には保護者から成育歴を把握して会議等で共有している。0～2歳児は発達差を踏まえて毎月個別計画を策定し、一人ひとりの歩みに寄り添った支援を進めている。また3歳以上児では3か月ごとに個別記録を作成し、子どもの姿を積み重ね、成長の流れをとらえている。計画や記録は職員間で共有し、共通理解のもとで子ども理解を組織的に深めるよう努めている。また、年2回の保護者懇談会や利用者アンケートを実施し、園での子どもの様子や家庭での姿を伝え合う中で、保護者の要望も受けとめている。</p> <p>子ども一人ひとりの発達に応じた計画作成と支援に取り組んでいる</p> <p>全体的な計画は、養護と教育の両面を踏まえて年齢別に策定されている。年間計画は4期に区分され、月・週日の短期計画へと展開されており、周期ごとに振り返りを行いながら、次の計画に活かしている。週日案については前年度の記録もアプリ画面に表示され、日々の実践の参考として活用できる仕組みとなっている。特別な配慮を必要とする子どもに対しては、個別な計画を策定するとともに、適宜、個別支援会議を開き、併設の児童発達支援とも連携を図ることで、子ども一人ひとりの特性に即した援助を検討・実践している。</p> <p>日々の記録と会議を通じ、子どもの情報の確実な共有を図っている</p> <p>保育の質を支える基盤として、子どもの情報を共有するための複数の仕組みを設けている。日々の子どもの様子や保護者からの伝達事項を「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記入し、降園時には園での様子や連絡事項を加えて共有し、記入者と伝達者のサイン欄を設け、伝達漏れを防いでいる。子どもの姿や状況は園会議や乳児・幼児会議で検討され、発達段階や生活の様子に応じた対応や環境設定が検討されている。さらにクラス会議やケース会議を通じて一人ひとりの理解を深め、その内容を園全体で共有する仕組みとしている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>個人情報や羞恥心への配慮など、子どもが安心して生活できる環境づくりに努めている</p> <p>入園時には個人情報の取り扱いについて、各家庭への説明と同意の確認を行い、写真の掲載についても別に同意書を取得している。名札についても、人から名前を見られることに抵抗を感じる保護者には、背中に着ける方法を選択できるようにするなど、きめ細やかな配慮に努めている。また排せつの失敗の際には子どもの気持ちを尊重し、他児の目に触れない場所で着替えを行うこととするほか、年長児には性教育の一環として、プライベートゾーンの大切さや命の尊さを伝える取組も行うなど、子どもたちが安心して生活できる環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>子ども一人ひとりの人格の尊重と、個別の配慮や支援に取り組んでいる</p> <p>子どもの名前は、呼び捨てやあだ名で呼ばないことを決まりとするほか、子どもの体質への配慮として、食物アレルギー持つ子どもへの対応では、入園の際の面談時の情報や医師の診断に基づき、除去食を提供している。除去食の提供が困難なケースでは、保護者に弁当の持参をお願いしたうえで、園児が孤立しないよう、みんなと一緒に食事を摂れる配置に着座場所を設定している。地域性から外国を由来とする家庭もさまざまに在籍し、言葉の壁に対する配慮の必要もあることから、翻訳機を活用して円滑なコミュニケーションを図るなどの対応を行っている。</p> <p>虐待の防止に向けた仕組みを整え、職員の意識啓発と学びの機会を設けている</p> <p>家庭での虐待等の発生に備え、疑いや事例が生じた際の通報・連携先機関を定めるほか、発見から通報・対応までの流れ、虐待の早期発見・防止のポイントをまとめた手引書を整えており、年2回虐待防止に向けた研修を実施している。保育者による不適切な保育を防止できるよう、4月と10月の年2回、チェックリストを用いて、職員自らの子どもとの関わりや言葉がけへの自省・自戒を促している。子どもの人権について改めて確認するとともに、自身の保育内容と照らし合わせることで、子ども一人ひとりを尊重した保育を実践できるよう努めている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>「保育品質マニュアル」や「保育運営管理マニュアル」に、業務の標準が明示されている</p> <p>系列園共通の「保育品質マニュアル」を全職員に配付している。同マニュアルには、保育の計画と内容、虐待防止、給食の提供に関する基本的な考え方が詳述されるほか、苦情対応、衛生管理、感染症対策、入退園時の手続きや勤怠管理など、業務全般に必要な基本的な手順と留意点が網羅されている。同マニュアル内には写真やフロー図に加え、実践に役立つチェックリストや各種資料も掲載されており、「保育運営管理マニュアル」にも、衛生管理・感染症対策、虐待への対応、苦情解決のプロセス、給食提供に関する考え方や留意点が示されている。</p> <p>業務が所定の手順等に従って実施されているかを確かめる、さまざまな機会を設けている</p> <p>保育品質マニュアルは、毎年度最新のものを職員に再配付するとともに、安全管理や保育実践がマニュアル通り行われているか、法人による内部監査が実施されている。また昨年度は主任保育士が、内部監査の項目を用いた模擬監査を毎月実施し、結果をもとに職員間で対策を検討して改善に取り組み、効果が得られている。今年度は取組の意義をそのままに、方法を変え、計画や実践の振り返りの場に、内部監査項目を用意して話し合い、気づきを改善に活かせるようにしている。ISO審査や第三者評価など、外部機関による点検も定期的に受審している。</p> <p>安全性の維持・向上に向けた、業務の標準の確認と改善の取組がさまざまに行われている</p> <p>毎月の事故防止委員会で、自・他園の事故記録の分析に基づき、園での対応を検討し、職員に周知を図って対策を講じるほか、前述のマニュアル類に収められたフローチャートやチェックリストを用いた確認の仕組みも整えている。また前年度末には、新年度に向けた「キックオフミーティング」を実施し、事故防止や安全管理に関する留意点や、嘔吐処理や抗アレルギー剤の使用等の即時対応について、組織全体で再確認している。保護者からの意見を把握するための記録体制も整え、業務改善に活かしており、昨年度も今年度も具体的な改善につながっている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの主体性を引き出す環境設定に取り組んでいる</p> <p>子どもが主体的に遊びに取り組めるよう、環境の設定や玩具の選定を工夫している。日々の遊びの中で走り回ったり集中できなかったりする姿を、環境や玩具が合っていないサインと受けとめ、必要に応じて内容や配置を調整し、個々の発達や興味に合わせて環境を柔軟に変えることで、遊び込む姿を引き出せるよう努めている。乳児と幼児は互いの部屋を自由に行き来でき、自然な異年齢交流につながるほか、静かに集中できる空間と思い切り身体を動かせる空間とを分ける工夫もなされ、子どもが自分の気持ちや活動に応じて、遊びを深められるようにしている。</p> <p>多様性を尊重し、互いを認め合い育ち合う保育を実践している</p> <p>子どもたちが互いを認め合い、育ち合う姿を支える環境として、多様な特性を包摂するインクルーシブ保育を基調としており、配慮の必要な子どもとともに生活しながら、安心して過ごせる環境の整備に努めている。またさまざまな国籍の子どもたちが在籍する中で、生活を日々ともにし、ふれ合う経験が積み重ねられている。職員は法人共通の人権チェックを通して、子どもの人権に関する配慮を確認しており、日々の保育の中でも意識的に取り組んでいる。2歳児は年度後半に幼児の部屋に移行し、発達の段階に応じた生活の流れに自然と移れるよう配慮している。</p> <p>子ども同士の関わりを支える対応と、就学へのつながりを見すえた連携が図られている</p> <p>子ども同士のトラブルに際しては、保育者が一方的に判断するのではなく、まずは子どもたち同士で気持ちを伝え合えるように見守り、必要に応じて代弁や言葉の伝え方を援助している。乳児については、安全に配慮しつつケガにつながらない距離で見守り、状況に応じて仲裁や代弁を行うなど、子ども一人ひとりの気持ちを丁寧に汲み取る姿勢を大切にしている。幼児においても、互いの思いに寄り添うことを重視し、相手の立場を理解する経験につなげている。5歳児は就学を見すえて近隣の小学校との交流を行い、小学校生活への期待感や安心感を育んでいる。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭と園をつなぐ丁寧な情報共有の仕組みが整えられている 登園時には担当が視診や検温を行うほか、保護者から家庭での様子や体調を聴き取り、その日の子どもの状況の丁寧な把握に努めている。得られた情報は「シッターノート」に記録し、重要な事項は朝礼やチャットを通して職員間で共有することで、伝達漏れを防いでいる。保護者との信頼関係を深め、子どもが安心して園生活を送れるよう、各家庭との連携にも努めている。園での子どもの姿は、保護者には口頭でのやり取りに加え、「タイムライン」や乳児の個別連絡帳を通じて伝えており、日々の成長や園での様子を各家庭と共有している。</p> <p>一人ひとりの発達に応じた生活習慣の支援や、異年齢の交流の援助に取り組んでいる 排せつ・着替えや食事などの生活習慣の自立は、子どもの発達状況や生活背景、健康状態に応じて個別に支援している。基本的には自分で取り組む姿を見守り、必要に応じて援助することで、個々の自立心を育むことを方針とし、乳児期から荷物の管理を自分で行おうとする意欲を推奨し、異年齢での生活の中では、年上児が靴の脱ぎ履きなどを率先して手伝う姿が見られている。また、朝のお仕事として雑巾がけや畑の草取り・収穫、ヤギ小屋やニワトリ小屋の清掃等があり、子どもたちは年上児の姿をまねながら一員として取り組み、やり遂げる経験を重ねている。</p> <p>子どもの生活リズムを尊重し、心身の安定と安心を大切にされた保育が行われている 子どもたちが1日の生活を健康的に過ごせるよう、活動には静と動の切り替えが意識され、心身のリズムが整うよう工夫されている。朝の日課を終えると、夏季を除いて散歩に出かけ、自然の移ろいに触れながら身体を動かすことで、体力や感性を育んでいる。また、坐禅の時間で心を落ち着け、活動の区切りに絵本の読み聴かせを行うことで、生活全体のリズムの安定につなげている。午睡は子ども一人ひとりの生活リズムに合わせ、無理に寝かしつけず、安心できる環境を整え、乳児についてはSIDS対策として定期的に呼吸や体勢を確認している。</p>		

3 評価項目3 日々の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがぎまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの自主性や自発性を尊重した活動の展開に取り組んでいる</p> <p>子どもたちの自主性や自発性を尊重し、保育者の関わりや環境設定を通じて、自ら活動に向かえるよう支援している。活動の静と動の切り替えや、集中して遊び始める時間と空間の確保に配慮するほか、毎朝の異年齢でのリズム体操では、全身を動かして体幹やリズム感を養っている。朝の集まりでは保育者が子どもたちに1日の活動の見通しを伝え、帰りの集まりでは振り返りや翌日の活動を行うことで、園生活の見通しが持てるようにしている。生活の中では子どもが自分の思いや経験を言葉や表情で表現し、友達との対話によって共有する経験も重ねられている。</p> <p>五感を活かした体験を通じて、子どもの発見と意欲を育む取組を行っている</p> <p>子どもたちが「触れる・感じる・試す」といった五感を通じた体験を重ねることで、物事の特徴や自然の変化に気づけるよう配慮している。ボディペインティングや紙漉き体験、太陽光を使った実験など、多彩な活動を探り入れ、子どもが自ら発見する喜びを得られるような機会を設けている。保育者は子どもの表情や行動をとらえながら、活動を柔軟に発展させるよう努め、子どもたちは仲間とともに発見や驚きを楽しんでいる。またこれらの経験は日常生活にも広がり、友達との共感や協力の姿を生み出し、小さな成功の積み重ねが次の挑戦への意欲を支えている。</p> <p>散策や園庭遊びを通じて、発達段階に応じた子どもたちの心身の成長を促している</p> <p>日々の散策活動を大切にしており、行き先は子どもと相談をしたり保育のねらいに沿って選定したりしている。道中では交通ルールを学び、散歩先では集団遊びを通じてルールの大切さを知る経験も重ねている。また、自然物を拾って制作に活かすなど、自然とのふれ合いを学びに結びつけている。園庭では築山や泥遊び、感触遊びを存分に楽しめるほか、飼育しているヤギやニワトリ、亀と関わる姿も見られている。夕方も自由に遊ぶ時間が保障され、自然豊かな環境の中で子どもたちが主体的に活動を広げられるよう、工夫がなされている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>日々の遊びを基盤とした運動会は、子どもたちの心身の成長の機会となっている</p> <p>運動会では法人の方針に基づき、練習に時間を割くのではなく、日々の遊びや活動の中で取り組んできたことを種目として展開している。2歳児は親子競技を通して安心感の中で身体を動かし、3歳児はなりきり遊びを採り入れた種目で、自分たちの力を発揮している。また4歳児は仲間と力を合わせるパラバルーン、5歳児がリレーや伝統的な踊りに挑戦するなど、年齢ごとの発達段階に応じた経験が積み重ねられている。これらを含め、行事はその日限りでなく、日常の遊びや生活に連続し、今後の学びや自信へとつながっていく大切な機会と位置づけている。</p> <p>子どもの個性を尊重し、多様な表現を育む発表会に取り組んでいる</p> <p>発表会は「人前で発表することだけが表現ではない」という考えのもと、子どもたちの得意や関心を大切にしながら進められている。ダンス・劇・制作のチームに分かれ、子どもが自分に合った表現方法を選べるようにし、途中で変更も柔軟な対応としている。制作チームは時計やアクセサリーなどを作り、舞台上で店を開き、保護者とやり取りを楽しみながら表現を広げている。ダンスや劇のチームも、自分たちのアイデアを活かして発表を行っており、保護者からも好評の声が寄せられ、開催を通して、園が安心して子どもを見守れる場であることが再確認されている。</p> <p>保護者主体の行事を通じて、子どもとともに楽しみ合う経験を重ねている</p> <p>種々の行事は、子どもたちが伝統や地域に根ざしたつながりを実感しながら、協力する喜びや達成感を味わう機会となっている。季節行事は、制作活動や由来の紹介を通して、子どもたちが文化や習慣に親しめるよう企画している。また、地域や保護者とのつながりを大切にしたい「どろんこ祭り」では親子・卒園児・地域住民も加わり、賑わいのある交流の場となっている。開催に向けて子どもたちは看板作りなどに取り組み、当日は手作り神輿を担いだり、ゲームコーナーや飲食コーナーを楽しむなど、仲間や大人と一緒に準備から参加までを体験している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>子ども主体の生活リズムを大切にし、長時間保育でも安心して過ごせるようにしている</p> <p>子どもが長時間を園で安心して過ごせるよう、日々の活動において静と動のバランスを図り、子ども主体の生活を展開させることで、子ども自身がストレスを抱えることなく1日を過ごすよう配慮している。また園舎内は園庭やテラスとつながる環境となっており、気分転換をしながら心地よく活動できるよう工夫されている。午後のおやつ後には園庭での遊びも採り入れられ、土や砂に触れ、時には泥んこになりながらお迎えを待つ姿が見られている。不安な様子を見せる子どもには、保育者がそばに寄り添い、安心感を持って過ごせるようにしている。</p> <p>職員の連携と継続的な関わりにより、子どもが安心して過ごせる体制を整えている</p> <p>延長の時間帯は、別室で過ごすこともあり、普段の環境とは異なる雰囲気の中で、落ち着いて遊んだり集中できる工夫がなされている。また午睡をしっかりと取ることで、健康的に過ごせるよう配慮しており、子ども自身が気持ちを切り替えて過ごす、1日の節目の一つにもなっている。日中の変化は昼礼で職員間に共有され、お迎え時には出来事をエピソードとともに伝え、家庭との連携を深め、翌日の安心した保育につなげている。職員同士での丁寧な申し送りにも努め、担当が変わっても一貫した関わりを保障し、園全体で子どもを支える体制を整えている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>日々の食事でも子どもの主体性を大切に、友達とともに味わう時間をつくっている</p> <p>旬の食材を活かし、和食中心の献立を大切にしながら、食事の場面では子どもが自分で盛りつけたり座席を選んだりするなど、自分なりに関われる工夫がされている。友達との会話を楽しみながらゆったりと食べられる雰囲気を大切にしており、猛暑時や冬の寒い時期を除いては縁側で外の風を感じながら食事をしている。離乳後期からは手づかみ食べを採り入れ、自然な発達に寄り添う形で自立を促している。また、季節感のある献立や行事食を提供する際には、関連する絵本を読んだり、行事にまつわる話をしたりして、食の背景にも触れられるよう工夫している。</p> <p>安心・安全を重視した離乳食とアレルギー対応を行っている</p> <p>離乳食は子どもの様子を丁寧に観察し、無理のないペースで進めている。食物アレルギーについては、医師が記入した生活管理指導票をもとに、保護者との個別面談を行い、全職員で情報を共有したうえで対応を開始している。提供時にはアレルギー児専用のシートやトレーを用いたり、やや離れた位置で食べたりするなどの環境的な配慮を行い、おかわりも専用のタッパーで分けるなど、安全確保を徹底する工夫にも努めている。また、座位が安定していない子どもには、専用のチェアを使用するなど、すべての子どもが安心して食事に向き合えるようにしている。</p> <p>野菜づくりから調理・地域との交流へつながる食育が実践されている</p> <p>園の裏に広がる畑は、子どもたちにとって日常の営みの一部として定着している。水やりや草取り、栽培、収穫後の片付けまでを自分たちで行うことで、責任感や粘り強さに自然に育まれている。収穫した野菜は給食やおやつに活用するとともに、漬物や梅干し、トマトソースなどに加工して、クッキングへと展開されている。また地域に配られることもあり、子どもたちの活動が家庭や地域とのつながりにも広がっている。畑での仕事の過程では、友達と協力し合いながら達成感や自信を味わい、育てる喜びと食べる喜びがにつながる体験が積み重ねられている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>自身の身体と心を大切に作る保健指導を実施している</p> <p>自身の身体を大切に作る気持ちを育み、友達を大切に作る心を養うことを目的に、保健指導を行っている。看護師が主体となり、年齢や発達段階に応じた手洗い指導を実施し、ブラックライトやスタンプなどの教材を用いることで、楽しく正しい手洗いを覚えられるようにしている。またうがいや鼻のかみ方など、日常の衛生習慣も指導している。脈の測定、聴診器の使用体験を通じて身体への興味を深めているほか、絵本を用いて臓器に関する話も行っている。卒園までには「自分の身体は自分で守る」という意識を育むための性教育にも取り組んでいる。</p> <p>安全で衛生的な生活環境を確保するため、組織的にさまざまな対策を講じている</p> <p>子どもの安全で衛生的な生活環境を確保するため、組織的にさまざまな対策を講じている。事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットや事故の情報を整理した上で、具体的な対策等を検討し、全職員に情報を周知し、事故の発生の予防と再発の防止につなげている。衛生管理体制の強化にも努め、感染症拡大を防ぐため、保育室の換気を行うほか、施設内各所の消毒を日々実施し、感染症が流行した際には、マニュアルに従い消毒を実施している。また嘔吐物の処理を確実にできるよう、看護師による嘔吐処理研修を定期的に行っており、知識と手順の確認をしている。</p> <p>子どもの健康状態を日常的に把握し、保護者への保健情報の提供に取り組んでいる</p> <p>子どもの健康状態は登園時の視診によって確認し、いつもとは異なる様子が見られたり、保護者から疲れや体調への不安を伝えられたりしている場合には、職員間で共有して頻回に子どもの状況を確認し、体調の急変に備えている。また嘱託医による健康診断を定期的に行うほか、医療情報の提供に応じてもらっている。保護者からの看護師への健康に関する質問は随時受け付け、時節ごとに流行する感染症や身体・健康に関する情報は、保健便りにて提供している。園内で感染症が発生した場合には、掲示やアプリにて状況等を伝え、注意を呼びかけている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の仕事と子育ての両立の支援や、育児の参考となる情報の提供に努めている</p> <p>保護者が仕事と子育てを両立できるよう、個々の事情に配慮した多面的な支援に努め、急な残業による保育時間の延長や補食・夕食の提供にも柔軟に対応している。また食物アレルギーや熱性けいれんの既往などを持つ子どもの、個々の体質への個別の配慮を行い、対策を講じるほか、離乳食の提供や排せつの自立への援助では、子どもの状態を保護者と共有し、必要に応じて助言も行っている。園・保健・食育の各便りでは、感染症の情報のほか、靴の選び方や人気メニューのレシピなど、保護者に育児の参考となる情報の提供にも取り組んでいる。</p> <p>保護者同士の交流と連携を深める機会を提供している</p> <p>保護者が孤立せず、情報や悩みを共有できる場を設けている。年2回、6月・11月に実施する保護者懇談会では、園からの情報提供や依頼事項の伝達だけでなく、保護者同士が意見交換・情報共有できる自由懇談の時間を設け、交流を深められるよう配慮している。また保護者参加行事「どろんこ祭り」は、保護者有志による任意参加の保護者組織「どろんこサポーターズ」と協働して実施しており、保護者企画のブースを設け、また昨年度は園庭の築山作りを保護者と協力して行うなど、保護者参加行事が保護者同士の交流の機会にもなっている。</p> <p>保護者同士の相互理解・信頼関係を深められるよう、さまざまに取り組んでいる</p> <p>園と家庭の相互理解を深め、子どもの成長をともに支えるための機会の充実に努めている。日々の送迎時の対話や情報発信を通じて、子どもの様子を家庭と伝え合うほか、保護者懇談会では、強い身体や自分で選択し行動する力、判断力や表現力など、法人が大切にす「6つの力」を育てるための保育内容や、子どもたちの姿、発達の特徴などの情報を伝えている。保育参加も随時実施し、保育内容・子どもの成長・保育者の関わり方などを知ってもらうことで、保護者との信頼関係の深まりにつなげており、個人面談も希望と必要に応じて実施している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>毎週実施する「商店街ツアー」での体験が、好奇心の広がりや探求の深まりを促している 地域資源を活用した多彩な活動が、子どもたちの好奇心の広がりや探求の深まりを促している。多様な仕事の見学や地域の人との交流を目的に、地域のさまざまや店舗や会社を訪問する「商店街ツアー」を毎週設けている。訪問先は八百屋・交番・郵便局・花屋・楽器店・図書館・寺院など多岐にわたり、単なる地域での体験・交流にとどめず、鍵盤ハーモニカの導入として楽器店に出かけて楽器を見学したり、水の濾過実験に向けて図書館に出かけ、調べたりするほか、バケツで栽培したお米の収穫を前に米店で新米を見るなど、園での活動とも関連させている。</p> <p>地域での活動は、子どもたちの興味の芽生えや知識の獲得、社会性の伸長を促している 上記の商店街ツアーに加え、銭湯や老人福祉施設への訪問を毎月実施し、さまざまな人との交流を深めるほか、園の畑で収穫した野菜を、日頃お世話になっている地域の方々にすすそ分けし、感謝の気持ちを伝えている。また公園で毎月行う「青空保育」も、地域の方との交流の機会となっている。近隣の小学校とも連携を図り、校内を見学したり、校庭で遊んだりしており、小学校への期待を高めている。これらの地域での活動は、子どもたちの興味・関心の芽生え、知識の獲得、コミュニケーション力や規範意識といった社会性の伸長を促している。</p> <p>園内外のさまざまな取組を通じて、子どもたちが職員以外の人と交流している 前述の地域の方との交流に加え、高等学校の職業体験のほか、保育の仕事の意義や魅力を伝える機会として、東京都福祉人材センターが実施する職場体験事業を受け入れており、参加者と子どもたちが一定期間、生活と遊びをともにしている。また「どろんこ祭り」は地域にも開放し、近隣住民や小学生などが多数参加するほか、卒園児を夏休みに招待しており、ランドセルを背負わせてもらったり、教科書を見せてもらったりしている。また子育て支援「ちきんえつぐ」に来園した親子と一緒に遊ぶこともあるなど、さまざまな人との交流が持たれている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル①	子どもの安全確保と確実な業務遂行のため、業務の標準化に取り組んでいる	
内容①	業務全般の手順と留意点を網羅した「保育品質マニュアル」や「保育運営管理マニュアル」などの手引書類を整備しており、保育品質マニュアルは、毎年度最新のを全職員に配付している。前年度末には次年度向け、安全管理に関する留意点、嘔吐処理や抗アレルギー剤使用等の即時対応について、組織全体で再確認するほか、事故防止委員会が事故記録を分析して職員に周知し、安全性の維持・向上に努めている。また内部監査項目を用いた園内独自の確認の取組を実施し、法人の内部監査やISO審査など、定期的な点検を受ける仕組みも複数設けられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル②	健康や身体への関心を持ち、自らを大切にすることを育めるよう保健指導を採り入れている	
内容②	子どもへの保健指導では、楽しみながら取り組めるよう、さまざまな教材を用いている。手洗い指導では専用の蛍光ローションを汚れに見立て、ブラックライトを当てて洗い残しがわかるようにし、効果の実感を促すほか、スタンプも使い、洗っていない手で触ったパンと手洗い後の手で触ったパンでは、どのようにカビが発生するかの実験も行っている。また脈の測定や聴診器の使用体験を通じて身体への興味を深め、絵本を用いて臓器に関する話も行のほか、さらに自分の身体は自分で守るための性教育には、身体の構造がわかる木製パズルを活用している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者懇談会や保育参加など保護者との共通理解を育むための取組を行っている	
内容③	「子育てが楽しいと感じられるような保護者支援を目指し、最高のパートナーとなる。」を事業計画のねらいの一つに掲げ、保護者との共通理解を育むための多彩な取組を行っている。保護者懇談会では、園が目標とする子どもの「6つの力(丈夫な身体や自己選択する力、表現力など)」の育ちについて、事例を交えながら説明するほか、日々の活動や子どもの様子は、送迎時の対話や連絡帳のやり取り、アプリの「タイムライン」等で伝えている。保育参加・個人面談は希望に応じて随時設け、子どもの成長を感じられるよう、親子で参加する行事も企画している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	五感を刺激する多様な体験を通して、子どもが自ら感じ取り表現する力を育む取組をさまざまに行っている
	内容	子どもたちの活動は、泥や水、自然物、動植物との関わりといった、五感をフルに使った体験を基盤として展開されている。こうした経験は園の理念である「子どもが自ら感じ、考え、行動することを大切にする保育」に根差しており、日々の遊びや活動の中でそれらの力が培われるよう活動を企画している。また異年齢での関わりを通じて、年上児が年下児を助けたり、年下児が憧れを抱いて挑戦する姿が自然に見られ、互いの成長を促し合う姿につながっており、保育者は子どもの表現の丁寧な受けとめや、仲間との対話や共同の活動へつなげる支援に努めている。
2	タイトル	日常の学びを基盤にした行事を通じ、子どもたちの挑戦や自己表現を尊重し、家庭や地域とのつながりを深めている
	内容	子どもたちがさまざまな挑戦の体験を通じて達成感や仲間とのつながりを実感し、豊かな育ちにつながる活動を提供している。行事を日常の遊びや学びの延長ととらえ、子どもたちが協力し挑戦する過程を大切にしており、運動会では遊びから発展した活動を採用し、勝ち負けにとらわれず達成感や協働の喜びを味わっている。発表会では一人ひとりが興味に応じて表現方法を選び、自己表現の幅を広げており、保護者主体の「どろんこ祭り」では、準備から当日までを保護者と一緒楽しんでおり、家庭・地域・園が一体となる貴重な機会となっている。
3	タイトル	食を通じて命に感謝し、労働と協働を経験しながら生きる力を培う食育に取り組んでいる
	内容	食育の取組は「生きること」「食えること」、そして「自ら働くこと」を一体の営みとして実施している。園の畑での土作りから収穫、調理や加工に至るまでの過程に、子どもが主体的に関わることにより、食材への興味や関心を高め、労働の喜びや責任感、仲間と協力する大切さを体験的に学べるようにしている。また、魚の解体や園で飼っていたニワトリを食する取組では、命をいただくことの意味を実感し、自然や他者の営みへの感謝の心を育てている。一連の体験は食と命のつながりや生きるうえでの食の大切さを知り、力強く歩む力へとつながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の保育の特性を踏まえ、防犯対策のさらなる工夫や、保護者の安全面への信頼を高めるための積極的な発信に取り組むことを期待したい
	内容	不審者対策訓練を定例で年2回、いずれも園内への侵入を想定して行っている。猛暑時を除き、子どもたちが日々活発に散歩に出かけていることを考慮すると、戸外での不審者との遭遇なども、訓練時の想定に加えることを一考されたい。また、利用者調査の安全対策に関する質問では、必ずしも高い支持が得られていないが、子どもが活発に身体を動かし、土に触れながら多彩な学びを得ることを大切にす一方、それを保障すべく、子どもの安全と健康を守るための取組や仕組みもさまざまに設けている。それらを保護者により積極的に発信する工夫も期待される。
2	タイトル	現場が士気や帰属意識を高く保ちつつ、目指す保育を体現し続けるうえで、働く環境の不断の向上に取り組むことも期待される
	内容	職員自己評価では、現場の人的体制の確保や業務負担の軽減などについて、課題を挙げる声が散見されている。経営層は法人とも連携し、人員配置のゆとり確保やICT等活用による業務削減など、必要な手当てを行うとともに、中堅・リーダー層の育成をはじめ、組織全体のスキルアップを図り、生産性を高めることで、負担感の抑制にもつなげたいと考えている。また、上記の安全面を含め、目指す保育を体現しながら、それを現場の士気や帰属意識の維持・向上と両立させるうえで、法人として体制面でのさらなる支援に取り組むことも期待される。
3	タイトル	事業計画を園の前進と成長により活かすために、作成から振り返りまでの各プロセスにおけるさらなる工夫も一考されたい
	内容	事業計画には、園運営の各主要分野で年度の目標・ねらいや取組内容が定められ、当年度以降3年間の目指す姿・重点施策も示されている。同計画は園長が主に作成して年度開始前の「策定会議」で職員にも発信され、年度の事業報告書において振り返りを行う仕組みとなっている。計画の実行や成果の質を高めるうえでは、定性または定量的な、分野や取組に応じたより具体性のある目標の設定や、それらも踏まえた年度途中での進捗確認も有効かと思われる。また、それらを職員も交えて行い、計画を組織の方向性の共有により活かす工夫も、併せて期待したい。